

トビウオ通信 (H23 第1号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 22 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業(かけまわし)

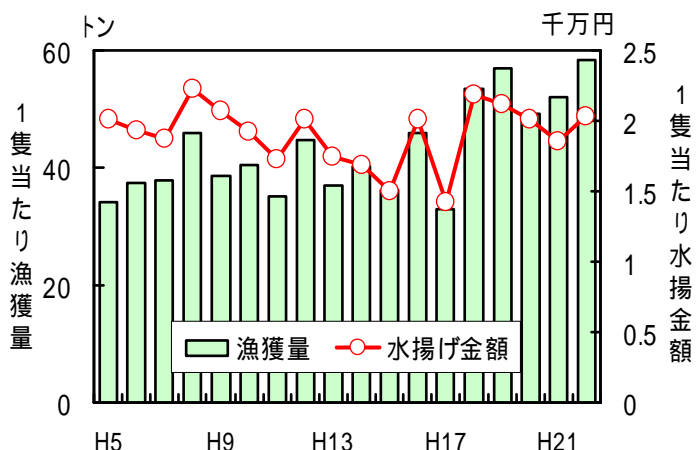


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量・水揚げ金額の動向(9~12月)

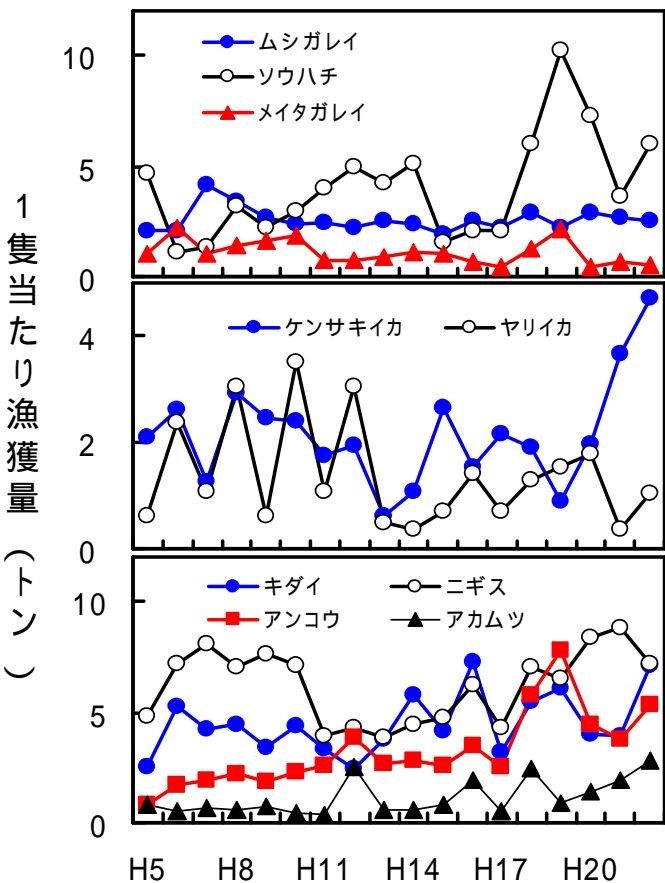


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(9~12月)

1隻当たり水揚げ金額、平年並み

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)52隻*の平成22年漁期前半(平成22年9月1日~12月29日)の総漁獲量は3,028トン、総水揚げ金額は10億5,419万円でした。1隻当たり漁獲量は58トン、水揚げ金額は2,027万円で、漁獲量、水揚げ金額とも前年、平年を上回りました(図1)。11月以降、寒気の影響で時化の日が多く、操業日数や曳網回数が減少しましたが、漁獲量、水揚げ金額とも増加しました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は53隻ですが、統計は52隻分の集計です。平年は過去10年平均。

カレイ類 堅調

主要魚種であるソウハチの1隻当たり漁獲量は6.0トンで、前年の1.7倍、平年の1.3倍の水揚げがありました。ムシガレイの1隻当たり漁獲量は2.5トンで、前年、平年並みでした。また、メイタガレイの1隻当たり漁獲量は0.5トンで、平年の5割程度の漁獲に留まりました。ヤナギムシガレイの1隻当たり漁獲量は0.6トンで平年並みでした。カレイ類としては、メイタガレイを除く他の3種で平年並み、もしくは平年を上回り、堅調に推移しました。

ケンサキイカ 過去最高!

ケンサキイカの1隻当たり漁獲量は4.7トンで、前年の1.3倍、平年の2.6倍の漁獲があり、平成5年以降最高の水揚げとなりました。特に、9、10月に量がまとまりました。一方、ヤリイカの1隻当たり漁獲量は1.1トンで、平年を1割下回りました。

アカムツ 過去最高! キダイ 好調!

キダイの1隻当たり漁獲量は7.1トンで、平年の1.5倍の水揚げがあり、平成16年に次ぐ水揚げとなりました。期間を通して、大型サイズ(通称:レンコ)、小型サイズ(通称:シバ)ともに安定した漁獲がありましたが、例年に比べ、小型サイズの漁獲が増加しました。アカムツの1隻当たり漁獲量は2.8トンで、平年の2.1倍の水揚げがあり、平成5年以降最高の水揚げとなりました。また、アンコウの1隻当たり漁獲量は5.3トンで、平年の1.3倍の漁獲がありました。一方、ニギスの1隻当たり漁獲量は7.2トンで、前年を下回りましたが、平年を上回る水揚げがありました。

沖合底びき網漁業（2艘びき）（県西部）

1 統当たり漁獲量・金額は前年をやや上回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（5ヶ統）の平成22年漁期前半（平成22年8月16日～12月29日）の総漁獲量は1,725トン、総水揚げ金額は7億3,390万円でした。1統当たりでは、漁獲量345トン、水揚げ金額1億4,678万円で、前年（298トン、1億4,123万円）を漁獲量で16%、水揚げ金額で4%上回りました。一方、平年（過去10年平均280トン、1億3,943万円）では、漁獲量は23%、水揚げ金額は5%上回りました。

今期はエチゼンクラゲの影響をほとんど受けず順調に操業ができ、それに加えケンサキカの豊漁により、漁獲量は平成元年以降最高となりました。一方、水揚げ金額は魚価の低迷により、伸び悩んでいます。

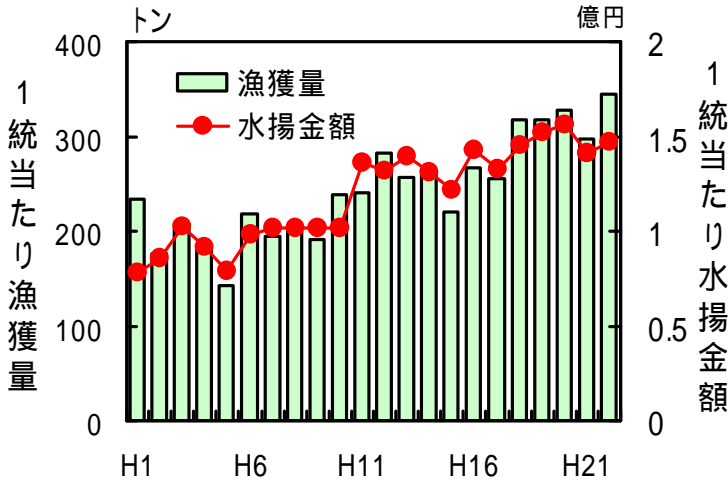


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量と水揚げ金額の動向(8～12月)

ソウハチ好調！ムシガレイ堅調

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量は49トンで、前年、平年を1割下回りました。ソウハチの1統当たり漁獲量は23トンで、前年の2倍、平年の1.7倍の水揚げがありました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は8.5トンで、前年の8割、平年の6割の水揚げに留まりました。ムシガレイは前年を下回りましたが、期間を通して堅調に推移しました。一方、ソウハチは11、12月にまとまった漁獲があり、好調に推移しました。

ケンサキカ 豊漁！

ケンサキカの1統当たり漁獲量は54トンで、前年の2倍、平年の2.7倍で、平成元年以降最高の水揚げとなりました。特に10月には21.6トン/統の水揚げがあり、昭和61年10月の22.8トン/統に次ぐ水揚げとなりました（統計が残っている昭和56年8月以降、月別漁獲量では2番目の漁獲量）。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は2.5トンで、前年を2割上回りましたが、平年並みの水揚げとなりました。

キダイ 過去最高！アナゴ類好調

アンコウの1統当たり漁獲量は19トンで、前年を上回りましたが、平年の8割に留まりました。アナゴ類の1統当たり漁獲量は30トンで、前年・平年の1.5倍で、平成11年に次ぐ水揚げとなり、好調に推移しました（過去2番目の漁獲量）。また、キダイの1統当たり漁獲量は35トンで、前年・平年の2倍で、過去最高の水揚げとなりました。期間を通して、大型サイズ（通称：レンコ）、小型サイズ（通称：シバ）ともに安定した漁獲がありました。アカムツの1統当たり漁獲量は10トンで、前年・平年並みの水揚げとなりました。ニギスの1統当たり漁獲量は10トンで、平年の7割の漁獲に留まりました。

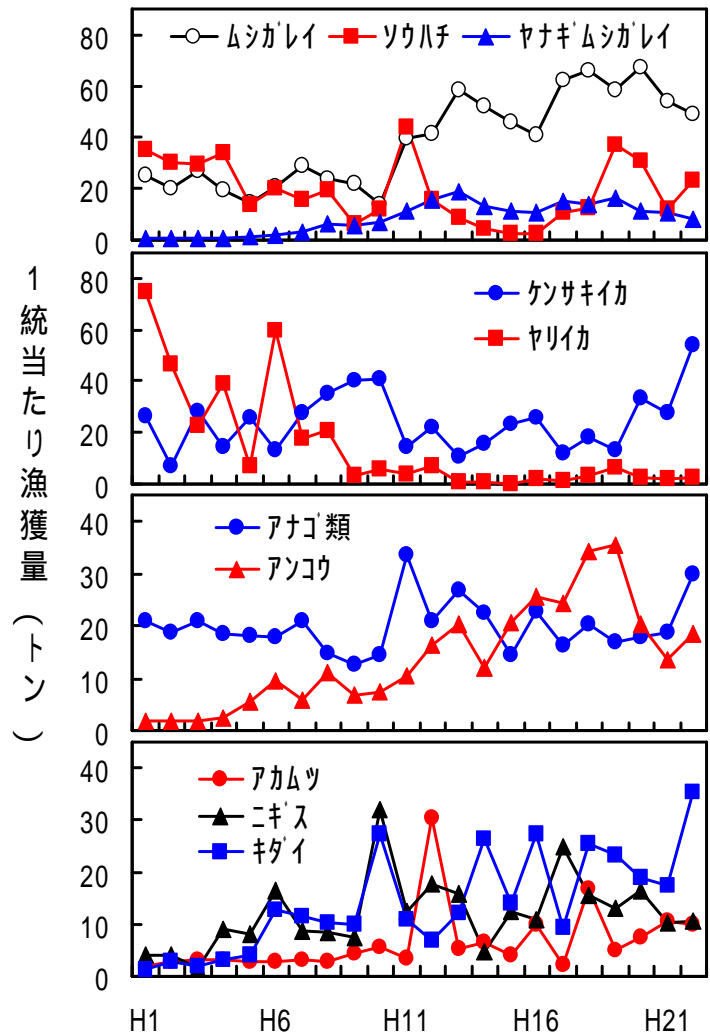


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(8～12月)